



## どこまで減らせる? ごみダイエット! ❀ ごみ減量の試みと実践 ❀

クリーンむさしのを推進する会 志賀 和男

「クリーンむさしのを推進する会」は、東京都武蔵野市で全市的に活動する30年以上の歴史のある市民団体です。毎年実施している《クリーンむさしのを推進する会 市民集会》、今年は「どこまで減らせる? ごみダイエット! -ごみ減量の試みと実践-」を掲げて、2月17日(金)に開催しました。

パネリストに中井八千代さん(容器包装の3Rを進める全国ネットワーク事務局員)、江川美穂子さん(ごみ・環境ビジョン21 専務理事)、和地 稔さん(武蔵野クリーンセンター所長)を迎え、コーディネーターを白石ケイ子(当会副会長)が務めました。

クリーンむさしのの会長の新垣、ゲストのむらかみ邑上武蔵野市長の挨拶に続いて、3人のパネリストから後述のような要旨の提言があり、次いで白石副会長が会の現在の活動状況について報告しました。休憩をはさんでのパネルディスカッションでは、追加提言と会場からの意見も交えた討議で盛り上がり、120名の聴衆も最後まで参加され、盛会のうちに終了しました。

### ❀ 新垣会長の挨拶

武蔵野市では昨年(2017年)の3月11日以後、大幅なごみの減量がみられたが、夏過ぎからリバウンドで元に戻っている。平成29年の新クリーンセンター完成にあわせて、生ごみの水切り、さらにクリーンセンターへ生ごみを持ち込まない取組みを市民・行政協働で実施していく。

### ❀ 邑上市長の挨拶

現在「1人1日600グラム」を目指してがんばっているところである。今年度から「むさしのエコポ(エコ掲示板)」を始め、新たなリユースに取り組んでいる。3月議会では、新しい雨水利活用を提案していく。武蔵野市は環境を大事にしている自治体であると確信している。

### ❀ 3R全国ネット 中井八千代さんの提言

昨年8月31日の通常国会で2R促進を求める請願が全会派一致で採択、環境委員会での請願採択は実に10年ぶりであった。これによって加速

される容器包装リサイクル法の見直しに向け、3R全国ネットでは、連続学習会の開催や、新たなしくみの市民案作りに現在プロジェクトチームで取組み中である。

昨年、全国の人口5万人以上の自治体にアンケート調査を行った結果、容リ法で困っていることは…

- ① 収集・選別・保管のコストが自治体負担
- ② 容器包装プラスチックの正しい出し方の周知が難しい
- ③ 容器包装の判断が難しく、廃棄されたり、対象外の混入がある
- ④ 容器包装プラスチックの汚れや臭いの基準が不明確で収集・処理に過大な負担
- ⑤ 発生抑制につなげていない

…等が挙げられた。こうした現実に対し、容リ法改正に望むこととして、拡大生産者責任の徹底、製品プラも対象とし素材別の資源化、分別基準適合物の引取品質ガイドラインの見直し等が挙げられ、その他にも、リサイクル業者が利用用途に合わせて高度な選別、あるいは、単一素材とその他の容器包装プラの2分別回収。ケミカル業者への一括回収などの検討も賛成が多かった。

製品プラも対象にすることへの反対意見としては、搬出方法として減容が必要な場合、容器包装

プラと製品プラを混同して行うことは困難。減容しない場合はストックヤードの確保が困難などが挙げられた。

この他、単一素材を増やすために、単一素材の再商品化費用を半額にし、複合素材は倍にすることで単一素材への移行が促進される。自治体の費用負担を軽くするために、集めた資源は事業者が買い取るしくみにし、店頭回収や集団回収も促進する、等々。

自治体アンケートに寄せられた意見なども取り入れながら、現在プロジェクトで検討を重ねている。

今後のスケジュールとして、4月に新しい容り法改正市民案のたたき台を作り、5月にそれを基にした政策研究会の開催を全国の環境団体に呼びかけ、7月に東京で全国会議を開催する予定。2R運動にぜひ武蔵野市長の賛同をいただきたい。現在21の自治体首長から賛同書が届いている。

ごみ・環境ビジョン21

## 江川美穂子さんの提言

今日は武蔵野市に多大なエールを送るために伺ったが、かなり耳の痛い話になる。多摩地域はごみの少ない先進地域で、全国平均の8割弱。では武蔵野市は「多摩地域ごみ実態調査」で26市中、総ごみ量（集団回収量を含む）は少ないほうから数えて26番目、ごみ収集量（家庭系ごみ量）では24番目、総資源化率は高い方から数えて8番目である。この実態調査が始まって20年になるが、残念ながら武蔵野市はずっと26番目であり、せめて真中ぐらいまで頑張ってほしい。

家庭系ごみの収集量は24番目（1人1日692g）で、上位8市は500g台である。平均の633gの昭島市と比較すると、可燃ごみ量は同じ位だが資源ごみ量が多い。ごみから資源への分別の努力はわかるが、3Rから2Rへ、また集団回収や店頭回収の拡大も望まれる。

事業系ごみは25番目で、事業系可燃ごみは多摩地域最多の189.4g。これはごみ処理手数料が多摩地域最小額の1kg20円の影響ではないかと思われる。

生ごみ処理の他市の減量の取組みとして…



- ① 小金井市…乾燥物を回収→堆肥化業者で堆肥化→農業者が野菜栽培→野菜をスーパーで販売
- ② 小平・立川・東村山市…行政回収→業者によって堆肥化
- ③ 日野市…市民による生ごみ利用のコミュニティガーデン
- ④ 町田市…集合住宅で大型生ごみ処理機31台稼働

生ごみの自家処理では、クリーンむさしのを推進する会の段ボールコンポストが多摩地域の先駆者で素晴らしいことである。武蔵野市は市民の組織力がある。市民と職員の熱意に期待する。

武蔵野クリーンセンター

## 和地 稔 所長の提言

耳の痛い話の後であるが、事業系のごみでは、職員が毎朝搬入されるごみのチェックを行い、さらに夜間や早朝に集積場に出向き中身のチェックをしている。その結果、平成13年度に比較して3500t減量してきた。平成29年度に稼働する武蔵野市の新クリーンセンターは、焼却炉を3炉から2炉に縮小する。そのためには計画ごみ量を年間30,607tにしなければならない。

現在、この計画達成のため、庁内ではごみ減量・資源化推進プロジェクトチームでごみ減量のための事業実施方法等を検討している。その具体的な検討事項は、コンポストガーデンを利用した環境教育、剪定枝の資源化推進、不用品の再利用推進の3点である。また、ごみ減量協議会では、容器包装の削減、生ごみの削減、紙ごみの削減に取り組んでいる。チーム一丸となってごみ減量を進めていくので、ご協力を切にお願いしたい。